



この事業の支援が、既に活動している事業に対しての発展的な支援として捕らえるなら、「現時点での申請内容は、初歩の段階であり、行政との連携とか団体の土台作りをするのが先決ではないか。」という点が課題としてあげられました。

「近所のお宝探検隊」の申請事業について

まず事務局から申請のあった4つの事業について簡単に説明したあと、審議にはいりました。各団体の申請内容は二面に掲載してあります。

今年度から新しく設定された、『連携型支援事業』の取り組みがいよいよ始まりです。先日の沖地ネット総会での承認を承けて募集をしたところ、四つの団体から応募がありました。新しい試みであったため、応募する側にも審査する側にもいろいろと迷ったところがありました。そこで、この事業への理解を深めていただく意味も込めて、七月三十日に開催された運営委員会での審議の様子を紹介したいと思います。

連携型支援事業 助成先決定!

しかし「離島での活動という点で、交通費などの資金的な負担が大きく、活動が進まない原因にもなっていることが非常に多い」「沖地の会員には組織的な土台が確立できていない団体も少なくなく、それを支援することも『連携型支援事業』として意味の有る事ではないか」等の意見が出されました。

「久高島振興会」の申請事業について

「調査がメインの事業であり、内容的には優れていて、沖地ネットの助

成ではなく、行政との協働などといった働きかけをする事で、さらに大きな事業として成果が期待できるのでは」といった提案がありました。

「豊城まがてくの会」の申請事業について

「組織がしっかりできており、事業のレベルも高い。支援によって確実に成果が上がると見込める」「関係する他の市民団体と沖地の会員団体との連携を作り出したい」という意図も評価できる」と言っ内容でしたが、希望する支援の内容が、勉強会への講師招聘の費用が主な申請なので、「連携型支援事業ではなく、全国協議会の助成金を活用するほうがより資金的にも効果が出るのでは」との意見がでました。事務局との連携で全国協議会への申請を進める方向で一致しました。

「伊計島の11班」の申請事業について

昨年「シマおこし研修交流会」から独自の

「連携型支援事業」の目的に合致するとの意見が出ました。

活動を継続的に発展させる事業内容であることが評価されました。活動の成果が開始されている団体をフォローアップし、より活動を支援することも『連携型支援事業』の目的に合致するとの意見が出ました。

「近所のお宝探検隊」と「伊計島の11班」を今年度の助成対象とすることに決定しました。

なお選定の方法については、「沖地の会員以外にも地域づくりの活動を行っている団体は多数あり、沖地ネットの組織的拡大を図るためにも、この連携支援を通して、『地域づくりのネットワーク』をアピールできるような事業に対し、より重点的に支援すべき」という

今回の審査会では、発展性、継続性、新規性、問題点など多くの議論がなされましたが、全会一致で二箇所に絞ることができず、最終的には運営委員の挙手による投票で「近所のお宝探検隊」と「伊計島の11班」を今年度の助成対象とすることに決定しました。



海のつぶやき：その9
波のまにまに行ったり来たり...ナミノコガイ
本島東海岸の砂浜。波打ち際に小さな貝が顔を出します。波が引くと砂の上にびよこんと出て、次の寄せ波に乗って砂の上を滑ります。波間に遊ぶ子どものように、波打ち際を行ったり来たりの波乗り貝。砂の上に止まった途端、ササッと砂に潜る素早さ。台風で海が荒れても、しばらくするとちゃんと砂浜に戻っているから不思議です。
(文・写真：鹿谷麻夕)

「榎福木屋となき」
島おこし会社「榎福木屋となき」は、これらの理念に基づき、島の伝統や景観の保全と活用、農業や漁業を有機的に結び付け、環境に配慮した村民ぐるみの観光産業を興す事を目的に設立された。

「榎福木屋となき」
島おこし会社「榎福木屋となき」は、これらの理念に基づき、島の伝統や景観の保全と活用、農業や漁業を有機的に結び付け、環境に配慮した村民ぐるみの観光産業を興す事を目的に設立された。



「榎福木屋となき」
島おこし会社「榎福木屋となき」は、これらの理念に基づき、島の伝統や景観の保全と活用、農業や漁業を有機的に結び付け、環境に配慮した村民ぐるみの観光産業を興す事を目的に設立された。

「榎福木屋となき」
島おこし会社「榎福木屋となき」は、これらの理念に基づき、島の伝統や景観の保全と活用、農業や漁業を有機的に結び付け、環境に配慮した村民ぐるみの観光産業を興す事を目的に設立された。



「榎福木屋となき」
島おこし会社「榎福木屋となき」は、これらの理念に基づき、島の伝統や景観の保全と活用、農業や漁業を有機的に結び付け、環境に配慮した村民ぐるみの観光産業を興す事を目的に設立された。

「榎福木屋となき」
島おこし会社「榎福木屋となき」は、これらの理念に基づき、島の伝統や景観の保全と活用、農業や漁業を有機的に結び付け、環境に配慮した村民ぐるみの観光産業を興す事を目的に設立された。

「榎福木屋となき」
島おこし会社「榎福木屋となき」は、これらの理念に基づき、島の伝統や景観の保全と活用、農業や漁業を有機的に結び付け、環境に配慮した村民ぐるみの観光産業を興す事を目的に設立された。

「榎福木屋となき」
島おこし会社「榎福木屋となき」は、これらの理念に基づき、島の伝統や景観の保全と活用、農業や漁業を有機的に結び付け、環境に配慮した村民ぐるみの観光産業を興す事を目的に設立された。

「榎福木屋となき」
島おこし会社「榎福木屋となき」は、これらの理念に基づき、島の伝統や景観の保全と活用、農業や漁業を有機的に結び付け、環境に配慮した村民ぐるみの観光産業を興す事を目的に設立された。

| | |
|--|--|
| <p>イベント情報 NPOのための広報スキルアップセミナー 日時：2007年9月8日(土) 10:00~17:30 場所：浦添市産業振興センター「結いの町」 沖地の会員は、参加費2,000円が半額の1,000円になります。この機会に自分たちの団体をアピールする技を磨きましょう。(詳細はチラシをご覧ください。)</p> | <p>新会員紹介 * 伊計島の11班・・・具志川「参水会」のメンバー数名が伊計島のシマおこしに立ち上がりました。 * うるま市立海の文化資料会友の会・・・昨年度のシマおこし研修交流会を契機に参加を決めました。 * 島尻体験ネットワーク・・・南城市で様々な物産に取り組んでいる方々の団体です。</p> |
|--|--|

編集後記
連携型支援事業の審議では、しっかり考えたと思っていたことが意外と曖昧だったことに気づかされました。真摯な議論というのは大切ですね。
一つお詫びです。今頃になって、この編集後記の隣に記載の事務局の電話番号が間違っていることに気づきました。836-2905であるべきものが098-836-2902(誤)となっていました。申し訳ありません。既刊の号を訂正していただければ幸いです。(HU)

発行
沖縄県地域づくりネットワーク
〒902-0073 那覇市上間338番地
TEL 098-836-2905 FAX 098-833-8552

大変貴重なご意見をいただきました。選定に当たったの考え方が基準について、今後も検討を重ねてより効果的な支援が出来るように改善していきたいと思っております。今回の選定にもれた団体に対して、「豊見城まちづくりの会」は、全国協議会の助成金の申請ならびに関連する沖地の会員団体との連携づくりなどの支援を行う「バックアップすること」、「久高島振興会」については、行政や沖地の関連団体への働きかけを行い、資金以外の面で沖地ネットとして支援していく事を確認しました。

泊港から二時間

山城運営委員長の offspring で渡名喜島の地域興しの様子を見てきました。



渡名喜港

シマおこし
見聞録

渡名喜島

二重の台風対策

渡名喜島の集落は一ヶ所に集まり、小高い山から見下ろすと、フクギの森の中に集落があるようである。なんと不思議な空間だ。この島の屋敷の造りにはもうひとつ特徴的なことがある。門から階段を下りて一段低い所に建物がある。フクギが防風林として家の周りに植えられたことはよく知られたことだが、道路よりも家が低く建てられているのも台風対策のことだ。この地では二重の暴



床より高い道路

砂上の集落 渡名喜

渡名喜島は、もともと2つの島、現在の西森と大岳から成り立っていたが、その二つの島と島の間に砂が堆積しひとつの島になった。これは「トンボロ現象」(陸繋砂州)と言われている。集落内の土地を掘ってみると5メートルほど下まで砂地になっていて水はけが非常によい。そのため家が道路よりも低く建てられても排水に困らないのである。

逆に、水のたまらない田畑は稲作には向かず、渡名喜島では水をあまり必要としない「モチキビ」が昔から作られていた。現在ではその「モチキビ」が島の特産品として販売されている。なお、渡名喜港から、西へ4キロの位置にある「入砂島」は、現在米軍の射爆場として利用されている。



南北で対照的な自然

島の南北にある二つの山はそれぞれ違う景観を見せている。大岳は、沖繩本島北部の本部や辺土岬などに見られるカルスト地形の岩山で、荒々しく海岸線から百メートル近く切り立っていて、屏風岩などが多く見られる。良質のセメントが作れると、開発の話が昔あったようだが、島民の反対



カルスト地形の岩山



河原なでしこ

で昔のままの自然の姿が残された。大岳の山頂付近にある見晴らし台からは、慶良間列島、久米島、粟国島などの周囲の島々が青い海の中に綺麗に見える、また周囲には河原なでしこの花の群生も見られて、自然観察などの散策にはとても良いコース

だ。北側の西森は土の山で、昔の遺跡などがほとんどここに集中している。農作地の少ない小さな島なので、昔はすそ野から頂上近くまで畑地として利

用されていたようで、今でも段々畑の跡が見られる。

島おこし
三つのキーワード
古い集落のたたずまいを残す渡名喜島は、今、沖繩の昔ながらの景観と歴史に溶け込んだ観光のあり方を模索している。そのキーワードは、「古い村並み景観の保護と活用」、「新しい、環境にやさしい交通システム」、「現在に息づく歴史、伝統、習慣のソフト化」で

コーディネーターを活用しよう
沖地ネットは、お金の面では大きなサポートはできませんが、人のネットワークは強力です。活動のアイデアが生まれれば、まず、地域づくりコーディネーターに相談してください。皆さんからの働きかけがすべての始まりです。

| | |
|---|---|
| <p>ご近所のお宝探検隊 (西表島)</p> <p>【支援をうけてやりたいこと】 生活排水による土壌や海(水質)の汚染の実態を地域の人たちに知ってもらい、官民一緒になって大切な生活環境を守るための行動を起こしていきたい。</p> <p>【具体的には】 講演会・勉強会等 土壌・水質チェック体制の構築 省エネ・環境保全型ライフサイクルの実践指導</p> | <p>久高島振興会</p> <p>【支援をうけてやりたいこと】 久高島には農作物の集荷・販売を行う組織がないため、農産物等による経済活性化に向けた大きな可能性が眠ったままになっている。そこでまず、島内農作物の生産状況の把握と本島への出荷に向けての市場調査を行い、さらには商品開発を目指したい。</p> <p>【具体的には】 島内農家戸別訪問による実態把握 本島内市場調査、分析 体制づくりへ向けての具体的プラン作成</p> |
| <p>伊計島の11班 (具志川「参水会」から分派)</p> <p>【支援をうけてやりたいこと】 地域の資源を活用した活性化事業について勉強会や研修を実施した結果、島内の協力者が徐々に増えて来た。そこで、島に拠点をもち、島の協力者と島外の応援団をまとめる事務局の体制を整えることが急務となった。これまでの活動の成果を生かしさらに発展させる活動の実践の中から事務局の土台づくりを行っていきたい。</p> <p>【具体的には】 島内協力者の参加の場と連携づくりのための勉強会 島内外から人を集めてシンポジウム</p> | <p>豊見城まちづくりの会</p> <p>【支援をうけてやりたいこと】 豊崎地区に予定されている総合運動公園のあり方から沖繩観光の出入口としての豊見城市の観光事業のあり方まで、「まちづくりの会」と他の各市民団体とが連携して取り組んでいけるよう活動してきた結果、各種団体とのつながりが生まれてきている。そこで、次の段階として、具体的な行動プログラムを構築する為の勉強会を行いたい。</p> <p>【具体的には】 年度内4回の勉強会</p> |

地域活性化センターの助成事業について

沖地ネットの会員で地域づくり団体全国協議会へ登録している団体は地域活性化センターの助成を受けることができます。

- 講師等派遣事業
- 研修会、講習会等 への講師招へいに係る謝金及び旅費の助成
- 地域づくり活動支援事業
- 地域づくり誌やホームページの作成等についてのアドバイザー招へいに係る謝金及び旅費の助成

いずれも、講師等への謝金(10万円まで)と旅費(実費、10万円まで)のみに対する助成です。実施の2ヶ月前までに申請しなければならないことと、一回助成を受けると翌年は受けられないという制限がありますが、これらの点さえ押さえれば比較的取りやすい助成金です。申請は沖地ネット事務局を通す必要がありますので、早めに相談してください。